

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		オリブまなびの家（児童発達支援）		公表日		2026年 4月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	一枠あたり最大2～3名の利用定員で支援を実施し、活動内容に合わせて環境設定を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	少人数の運営で、お子様に丁寧に扱われるようにしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	子どもの発達段階や特性に合わせて、5領域（健康・生活・運動・感覚・認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）の視点から環境を適宜変更している。写真・絵カードを用いた視覚支援により、見通しを持って活動できる環境を整えている。	固定化せずにお子様に合わせて合理的配慮を継続するとともに、感覚過敏等に配慮したスペースのさらなる充実を検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日清掃・アルコール消毒を徹底し、教具使用後も感染症対策の観点から洗浄を行っている。感染症流行時には、強化清掃を実施している。	衛生管理の徹底を継続しつつ、子どもたちが自ら手洗いや清掃の習慣を身につけられるような環境設定（5領域の「健康・生活」）をさらに工夫したい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	子どものニーズや状態に合わせて、適宜別室を使用し、個別での対応を実施している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	非常勤職員も含め、業務改善に向けての意見が出しやすい環境作りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎年保護者からの評価表を集計し、職員へ周知している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	適宜開催している会議にて、職員の意見の把握や情報共有を行っている。また会議以外の場でも、職員間でコミュニケーションを取りながら支援内容や業務改善について検討している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	50%	50%	外部研修等で他事業所の事例を参考にし、客観的な視点を取り入れている。また、SNS等を通じて活動を公開し、社会的な評価を意識した運営に努めている。	外部からの評価をどのように入れていくのか検討課題である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	法人内研修に加え、外部の専門研修にも積極的に参加している。特に5領域支援に関する理解を深めている。	研修で得た知識を全職員で共有する時間をさらに確保し、事業所全体の支援技術のボトムアップを図る。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	HPにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	JSI-R等のツールに加え、日々の活動観察から5領域ごとの強みと課題を分析している。子ども本人や保護者の意向を反映し、多角的な検討を経て個別支援計画を作成している。	アセスメント項目の精査を行い、より短時間で的確にお子様の状態を把握できるよう、デジタルツールの活用を含めた手法の見直しを検討している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	子ども本人の希望を聞き取ったり、涙み取ったりを日々の中でし、個別支援計画に反映させている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	個別支援計画に沿って、活動プログラムを検討し、支援を実施している。プログラムも直接支援の職員と適宜相談しながら、進めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	JSI-R等のアセスメントツールの使用や行動観察により確認している。	アセスメントツールの活用の仕方等、検討課題である	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	ガイドラインに基づき「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携」を網羅した計画を作成している。就学前相談の際には、療育の経過を保護者へ丁寧に共有している。	就学前のお子様の地域の小学校へ行かれる際の連携や引継ぎが行えないことが課題である。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	職員間で意見を出し合いながら、子どものニーズや発達段階に合わせたプログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	園の行事や季節のイベント等に関連した内容を意識し実施している。月ごとにコミュニケーション遊び等を考え実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	子どものニーズに合わせて、個別での机上課題と小集団でのコミュニケーショントレーニングを組み合わせ実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎朝申し送りを行い、当日の役割分担や子どもの留意事項を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	毎朝の申し送りや引継ぎシートを活用し、前日の支援の振り返りと気づきを全職員で共有している。	非常勤職員が引継ぎを上手に活用しているような周知方法の検討、各々のボトムアップが行えるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎利用時各プログラムに対して評価を記入する「引継ぎシート」を記録し、検証・改善・職員間の共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	最低6か月に1回モニタリング会議を実施し、職員間で計画の見直しを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が出席している。また会議後は児発管が事業所職員に会議内容を周知している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	毎年年度始めに、障害福祉、児童発達支援センター、教育、子育て支援課、保健師等関係機関との顔合わせの会を開き、意見交換を行っている。	開催が始まりまだ2回目なので、今後意見交換の中での連携の深まりはまだ見られないが、毎年開催する事で顔の見える関係を構築しながら、連携を深めていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	可能な場合は通園先を訪問し、園のご様子を情報共有させていただくことがある。児童発達支援センターに移行された方は、支援内容の経過や引継ぎを行っている。	センターや保育園との情報共有はできているが、幼稚園等との情報共有ができていないことが課題である。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	75%	25%	保護者を通じて情報を頂いている。就学前相談に行かれる際に、今までの療育の経過が分かるように、保護者の方に助言や情報共有させて頂いている。	就学時の移行時に情報共有できるよう、教育機関への働きかけが必要。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%	0%	サービス担当者会議等で情報共有を行う機会はあるが、スーパーバイズを受ける機会はなかった。	センターとの連携が図れるように、年度初めの顔合わせの際に、意見交換を行いどのように機会を設けていくか検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	今年度は8月に夕涼み会を企画し、地域の中就学のお子さまもご参加いただいた。4月・10月に地域イベント「彩りマルシェ」に子どもたちと参加しました。	今後も地域の方との交流方法を模索する必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎時や連絡帳にて利用時の様子をや発達状況を共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	必要に応じて、直接支援場面をモニターで観察しながら、児発管より助言等相談援助を実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用契約時に資料も使いながら説明している。	重説や契約書の説明だけで時間が掛かってしまうので、動画等も活用しながら効率化を図っていく必要がある
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	利用前のインテークより、保護者や子どもの意向を確認し、計画作成している。活動中や送迎時、アンケート用紙等で、子どもや保護者の意向を聞き取る機会を設け、計画に反映させている。	幼児期の子どもの意向を見立てていく力が必要
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	支援計画の説明を行い、保護者に確認いただいている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	随時、送迎時やLINE等でお悩みや相談事に応じている。必要に応じて、面談を実施している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	7月に実施した保護者会では、日頃の子育てや園生活の悩み等を共感できる場として交流の機会を設けた。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	保護者からの相談事があった際は相談受付票に記録し、職員間で共有・対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	HP・インスタグラムで行事や日頃の活動の様子を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	留意して取り扱っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	視覚支援ツールの導入や、ソフトを用いたスムーズな情報伝達を行っている。保護者の状況に合わせた伝達手段を選択している。	ICT活用が苦手なご家庭に対しては、対面でのフォローの併用など、二段構えの連絡体制を維持・検討していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	夕涼み会や「彩りマルシェ」への参加を通じ、地域住民との交流を図っている。地域に開かれた事業所運営を実践している。	交流機会を増やすとともに、不審者対応や事故防止など安全面を考慮した地域連携のあり方をマニュアルに反映させていく必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	緊急時対応マニュアルをお渡ししている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	研修・訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	利用契約時にフェースシートにて必要事項を記入いただいている。また服薬情報が変更になった際も速やかにお知らせいただくよう依頼している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	現在食事の提供はありません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画に基づき、研修・訓練を実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	安全計画は保護者の方がいつでも閲覧できるように、ソフト内で公開している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハット事案が発生した際は、記録を残し、全職員が共有できるようにしている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	研修を実施し、虐待防止委員会にて、法人内で虐待防止のための対策を講じている。当日参加できない非常勤職員は動画配信で必ず人権擁護の研修は受けるようにしている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	該当する児童は現時点ではないが、身体拘束委員会を設置し、虐待防止と合わせて身体拘束に関しても研修を実施している。		